

左の記事を読んで後の問いに答えましょう。

1 傍線部①のように、核兵器を「絶対的な「悪」」と考えるのではなく「必要悪」とする考え方があります。核兵器を必要悪とする場合、何が必要だと考えているのでしょうか。本文中から5文字で抜き出しましょう。

--	--	--	--	--

2 傍線部②とはどういうものですか。本文中から30字以内で抜き出して、最初と最後の3文字を書きましょう。

			～			
--	--	--	---	--	--	--

3 空欄に入る言葉を2文字を書きましょう。

--	--

4 傍線部③「ロシアの論理」とはどんな論理か書きましょう。

--

\* 解答は2ページ、記事全文は3ページ

NIEワークシート中～高校

人類史上初の原爆が広島に投下されて78年が過ぎた。街は一瞬で廃虚となり、生き残った被爆者の苦悩は戦後も続く。市民を無差別で殺りくした核の非人道性は、広島が世界に核廃絶と非戦を訴える原点となった。今、世界の平和が揺らいでいる。ロシアのウクライナ侵攻があり、中国や北朝鮮は核開発を強化し日本も「軍拡」を進める。私たちに問われているのは何か。

被爆者が次々と世を去る中①核兵器の持つ絶対的な「悪」を忘れないでほしい。

地域社会を崩壊させ、放射線による悪影響は長期間で計り知れない。原爆症による健康被害の実態はいまだに全容が

解明されていない。原爆投下の「罪」は戦勝国の名の下に免罪された。

一方②アジアに多大な犠牲を強いた日本の加害責任という歴史も記憶にとどめる必要がある。植民地化で現地の人々の暮らしと命をないがしろにした史実に日本は真摯に向き合ってきたのか。

敗戦によって日本は民主主義と自由、平和憲法を手にした。この重みを見ると、広島での先進7カ国首脳会議③サミットは残念な結



ひらおか・たかし 1927年大阪市生まれ。中国新聞編集局長や中国放送社長などをへて91～99年広島市長。著書に「希望のヒロシマ」など。

果だった。一つは核軍縮に関する「広島ビジョン」で核の抑止力を正当化したことだ。これではある意味③核の威嚇を振りかざすロシアの論理と通底する。

各首脳が原爆資料館を見学し被爆者の声に耳を傾け、核の悲惨さの一端に触れた。核廃絶に向けた取り組みは困難で時間がかかる。だからなおさら、具体的な戦略を打ち出してほしかった。

# NIEワークシートのこたえ（2023年8月9日公開）

## ◆ワークシート「広島被爆78年」（社会 SDGs 16） 2023.8.7付 朝刊 国際総合 解答

- 1 核の抑止力
  - 2 植民地～た史実
  - 3 G7
  - 4
    - 西側諸国がロシアを攻撃することを阻止するために、核の使用をほのめかして脅しているのだという論理。
    - ウクライナ侵攻に伴い、西側諸国のさらなる介入を阻止するための最後のカードとして、核兵器の使用を排除しないという論理。
- など（同意可）



人類史上初の原爆が広島に投下されて78年が過ぎた。街は一瞬で廃虚となり、生き残った被爆者の苦悶は戦後も続く。市民を無差別で殺りくした核の非人道性は、広島が世界に核廃絶と非戦を訴える原点となった。今、世界の平和が揺らいでいる。ロシアのウクライナ侵攻があり、中国や北朝鮮は核開発を強化し日本も「軍拡」を進める。私たちに問われているのは何か。被爆者が次々と世を去る中、核兵器の持つ絶対的な「悪」を忘れないでほしい。地域社会を崩壊させ、放射線による悪影響は長期間で計り知れない。原爆症による健康被害の実態はいまだに全容が

識者評論

広島被爆78年

元広島市長 平岡敬氏

非戦の道 政治とメディアに責任

説明されていない。原爆投下た。この重みを考えると、広廃絶に向けた取り組みは困難の「罪」は戦勝国の名の下に島での先進7カ国首脳会議で時間がかかる。だからなおめた。最近では武器輸出を緩和する流れも出てきた。G7の中で、日本はアジアの唯一の国だ。中国や北朝鮮など欧米をつなぐ橋渡し役として、平和に貢献する意志と努力が求められる。17歳で敗戦を迎えた私は朝来に対する責任を担うことで、鮮半島から広島に引き揚げす。広島を考えると、核戦争をいかに止めるのかという知恵を絞り出す努力は見えなかった。中国への懸念も表が目には焼き付いている。明され、世界の分断が深まった印象だ。平和と核廃絶を望む広島が「政治利用」された。予兆はあった。岸田首相は「ひろか・たかし 1977年大阪市生まれ。中国新聞編集局長や中国放送社長などをへて91〜99年広島市長。著書に「希望のヒロシマ」など。

免罪された。一方、アジアに多大な犠牲を強いた日本の加害責任とする「広島シヨム」で核の抑止力を正当化したことだ。これではある意味、核の威嚇に似た史実に日本は真摯に向き合ってきたのか。各首脳が原爆資料館を見学し敗戦によって日本は民主主義と自由、平和憲法を手にした。悲しさの一端に触れた。核戦争をいかに止めるのかという知恵を絞り出す努力は見えなかった。中国への懸念も表が目には焼き付いている。明され、世界の分断が深まった印象だ。平和と核廃絶を望む広島が「政治利用」された。予兆はあった。岸田首相は

昨年、安全保障関連3文書シヤの解放」という聖戦を信じる軍少年だった。被爆から78年。台湾有事が取りざたされ、アジアの安保情勢が緊迫しているといわれる。ロシアのウクライナ侵攻の出口は見えない。思い出されるのは、ロシア教皇ヨハネ・パウロ2世が1981年に広島を訪ね、訴えた言葉だ。「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことで、争を否定することです」危機をおおらず、事態を冷静に見つめる視点と非戦に向けた行動が、岸田首相をはじめとする政治家やメディアに今ほど求められている時はない。(談)



ひろか・たかし 1977年大阪市生まれ。中国新聞編集局長や中国放送社長などをへて91〜99年広島市長。著書に「希望のヒロシマ」など。